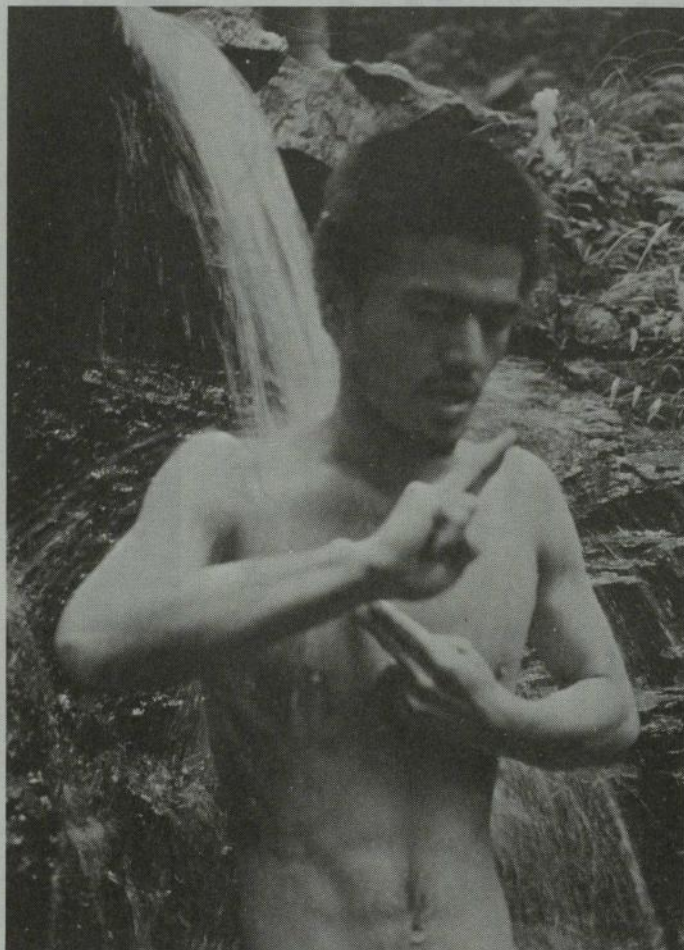


# 全仏

12 / 55



行

シリーズ⑧

滝行 (高野山真言宗)

(解説8面に)

昭和五十五年も残すところ、あとわずか。  
加盟団体のお力添えをいただきながら、事務総局は、当面する問題に一つ一つ全力投球を続けさせていただいた一年であった。  
今年には特に、同和对策特別委員会、機構改革特別委員会、全仏センター建設準備委員会、ルンビニ一開発準備委員会の四つの委員会

が新たに設置され、事務総局と力を合せて問題の解決にあたってくれた。  
本会の大きな事業の一つである日本仏教徒会議も、従来、各宗本山、県仏が中心となつて行われてきたものを、本年は、事務総局が主催し、加盟団体代表者集会という新しい形式で開催された。  
豊かな国の貧しい心、と言われ

る今日の人々の生活の中で、仏教者の果たすべき役割は、今後ますます重大である。  
加盟団体の叡智をいただきながら、社会の様々な要請をしっかりと受け止めたいと念じている。いろいろ試行錯誤もあろうかと思うが、来年も切にご挨拶をお願い申し上げます。台掌(一)

全日本仏教会

# 第27回全日本仏教徒会議開く

## 80年代、仏教の在り方をさぐる

さわやかな秋空の十一月一日、第二十七回全日本仏教徒会議（加盟団体代表者集会）は、東京・芝の浄土宗大本山増上寺を会場に、「八十年代の仏教開発」のテーマのもと、全日本仏教会の主催により開催された。今年度の大会は、ここ数年の地区仏教会主催の大会と違って、八十年代を含めて未来社会の目標設定のために、自から新しく脱皮しつつ仏教の真髄を開発すべく、討議を中心とするシンポジウム形式によって開かれた。

ほど静寂である。第二十七回の全仏大会はこの増上寺大殿での開会式で幕を明けた。

### 開会式典

馬場庶務部長の司会により、まず加藤総務局長が開会宣言。増上寺法主・藤井実応台下（全仏副会長）の導師で三帰依文唱和のあと、鱈淵正浩大会長（全仏理

事長）が「八十年代における仏教徒の指針となるよう熱心なる討議を希望する」と挨拶。つづいて来賓として安倍政調会長、石橋文部政務次官、ネパール大使が挨拶のあと、世連仏の招請で前日来日されたタライ・ラマ猊下が出席し「世界平和実現のためには心の平和が必要で、現代の社会には仏陀の教えが最も必要である。」と挨拶し拍手をあげた。

### 総 会

このあとインドのカルカッタ市長の紹介や祝電の披露があつて式を閉じた。

会場を大殿地下ホールに移し、中村財務部長の司会で開会。小野島事務次長が仮議長となつて議長団の選出にすすみ、桜井大乗師（東京都仏理事長、貝山宣泰師（神奈川県仏会長）、山本スギ氏（全日仏婦理事長）が選出され、議長団席に着席して議事に入った。

まず大会幹事が紹介され、幹事を代表して神野真一幹事長が挨拶。つづいて勝部組織局長が議事運営規則、シンポジウム発題上程、部会編成などの説明を行ない、小野島次長より全仏事務報告、田代組織部長より日程説明があつて総会を終えた。

### 部会は新しい形式で

#### シンポジウム

部会は、例年の提出議案と違って、シンポジウム形式をとり、各部会とも問題提起者の発題と、上程された意見発題を基として討議された。（別掲）

第一部会―八十年代における仏教の理



鱈淵正浩大会長のあいさつ



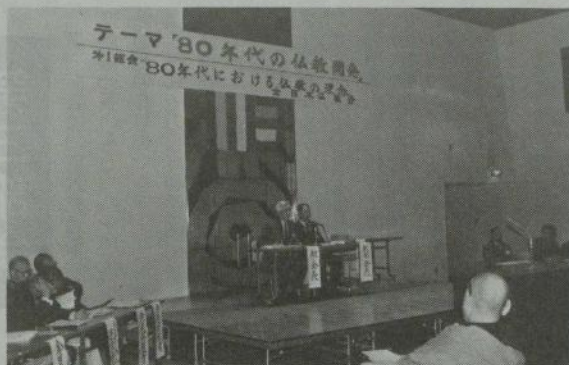
宣言文を読み上げる白川部会長

大都會のコンクリートジャングルの中  
では緑の木々が目立つ芝公園。その木々  
に囲まれた増上寺は都會の中とは思えぬ

### タライ・ラマ猊下出席



出席されたタライ・ラマ猊下



仏教の理念をテーマに第一部会

念

第二部会—八十年代における仏教教化の具体策

の在り方

第三部会—八十年代における仏教組織の在り方

全体会

部会終了後、大殿地下ホールに移って全体会が開かれ、磯山文化部長の司会により、柳副幹事長の開会の辞につづいて各部会の報告が、摩尼清之（第一部会）白川良純（第二部会）、塩入亮達（第三部会）の各部長よりなされた。次に宣言文（別掲）の発表があり、議長団退席のあと、真溪副幹事長の閉会の辞をもって全体会を終了。

閉会式

ひき続き地下ホールにて、鎌田国際部長の司会により、まず鱒淵大会長が挨拶したあと、前回開催の茨城県仏教会に感謝状が贈呈され、大越会長が受けた。次回の開催について小野島次長より発表があり、第二十八回大会も全日本仏教会の主催で行なうが場所は未定である。つづいて参加者を代表して正本乗光師（全日仏書）が挨拶、五島宗宣師が万歳を三唱し、安本国際文化局長の閉会の辞をもってすべての行事を終了した。

第一部会

第一部会は、摩尼清之部会長、西村輝成副部会長によってすめられ、まず、問題提起者の真溪義貞氏が「八十年代における仏教の理念」をテーマに「自然科学の発達とは反対に人類の未来は不安ばかりであり、諸外国においても、人類にとって悲観的な材料ばかりであることが提示されている。自然科学や生命科学の発展がみられているが、これらは未来社会の目標を設定する原理ではない。つまり科学の発展を充分認識したうえで、未来社会に果す仏教を考えねばならない。今こそ仏教再開発の理念確立が必要である。」と述べた。

このような発題に対し、科学技術と仏教との関係や、堕胎・人工授精などの問題に対する仏教側の対処などについて熱心な討議がなされたが、特に堕胎などの問題で「他宗教が中絶反対運動に取り組

む中において、仏教界は水子供養を行っているだけだ」との厳しい批判もなされた。

その他に、近代仏研の壬生照順師より「核兵器廃絶と軍備全廃をめざす平和理念の確立をしよう」との意見発題があり参加者一同は、国際情勢を考え、より一

教化の具体策を練る第二部会



第二部会

白川良純部会長、新井智清副部会長によってすめられた第二部会は、まず、松海弘道氏が「八十年代における仏教化の具体策」のテーマで問題提起として「これからの時代に、日本仏教徒が対す

層核兵器に反対し、科学の発達による恐ろしさ、人間をわすれることに対し、新しい仏教の方便を考え、これらの危機にたちむかふことが急務であることを確認した。

（助言者）美濃部薫一、山本スギ、井上日宏、佐伯真光、武藤義一

べきことは、第一に高学歴社会である。世界最高の進学率であるが、ほとんどが宗教教育を受けていない。教化策として仏教を知らしめることが重要である。第二には高年齢社会の到来で、後半生の満足のためには若年からの仏教生活がなくてはならない」との提言をふまえ、同氏は十二年間の海外生活の経験をもとにして「南方仏教の戒律なども考えた上で、日本仏教の問題点に注意しなくてはならない。仏教徒が日本語だけでは間に合わない時代にきている」と、日本仏教の欠点を人材の養成、教学の確立、伝道手段の確立などと指摘した。

このあと質疑に入り、フノンペンの惨情報告や、地域に根をおろした布教の具体例などが話し合われ、また「寺を明るくする努力が必要」、「仏教に対する偏見が多い」などの意見が出された。なお平和同願会の山崎良順師より「平和同願会に於ける教化活動の具体策」の意見発題も行なわれた。

（助言者）若林隆光、奈良康明、花山勝友

### 第三部会

第三部会は、塩入亮達部会長、永倉嘉文副部会長のもと、八十年代における仏教組織の在り方」をテーマに進行。まず問題提起者の松野純孝氏が「釈迦の仏教教団は五人比丘の帰依からはじまった。五人という数は組織づくりの基本だと思ふ。どのような五人組にするかということまず家族からがよい。これを出発点にサンガとか教団を考えると、現在はあまりにも仏教組織に頼りすぎている。現代の世俗社会の仏教を分析し、寺檀制度から体形を一般化し、権威主義、民主主義では仏教教団の機能は低下する一方ではないか」と述べた。



組織の在り方を追求の第三部会

また埼玉真仏の北之内真龍師が「仏教組織の在り方」として、同真仏の僧俗一体となった活動の組織上の成功例の意見発題や、全日仏青の正本乗光師の「仏教徒による国際奉仕機関を設立し救済寄金を設置しよう」との意見発題で、同仏青の難民キャンプ現況報告などから、国際救済センターを設立し、いつでもポラン

本日、東京増上寺に於て開催せられた第二十七回全日本仏教徒会議にあたり、全国より参集した加盟諸団体代表者は、グローバルな展望に立って仏教のありかたをさぐるために、シンポジウム「八十年代の仏教開発」を行なった。

あらためて言うまでもなく、わが国の仏教界は、内外ともに重要な問題に直面している。このときにあたり、我

## 第27回全日本 仏教徒会議 大会宣言

ら仏教徒は、仏教の社会に対する責務を自覚し仏教の原点に立ち帰って現下の諸問題解決に真剣に取り組み、もって世界の平和と人類の福祉に貢献せんとするものである。三部会にわけて行なわれたシンポジウムに於て、我らは次の如き問題の所在を認識し、仏教徒のすべき態度を確認した。

一、仏教の理念に基づき、科学や技術の発達によって増大した物質文明に

ティア活動ができるようにとの提案がなされた。

これらの問題提起、意見発題をふまえて、各分野からの助言者や参加者から、それぞれの仏教組織の在り方について熱心に討議された。

(助言者) 山口貴美子、桜井大乗、小峰令丸、佐藤泰淳、樋口道治、若菜一雄

対処し、八十年代を含めた未来における人間社会の明確な目標設定のために努力する

二、わが国の内外における、仏教に對する無知を解消すべく、仏教の根本精神の啓蒙につとめ、高齢化社会における老人の生活に生きがいを感じしめる等、社会の変化に対応して、教化の具体策を立て、その実行につとめる。

三、仏教教団が、本来のサンガの精

神にかなっているか、また家族制度の変革に応じて在家における教化の実が上っているか等の諸問題を踏まえて、仏教組織の在り方に検討を重ね、清新にして充実せる仏教組織の実現をはかる。

以上の通り、宣言する。

昭和五十五年十一月一日  
第二十七回全日本仏教徒会議

### 大会余談

▼快晴の秋空にもすこい黒煙。それとともに、ウーカンカンの消防車のサイレン。参加者一同は上空に上がる黒煙をみるばかりで、「こりゃ大変だぞ」。地方大会では花火で大会を盛りあげたこともあったが、第二十七回大会は火事の煙が開会の合図になった。(写真)



▼開会式にダライ・ラマ現下が出席。急の出席のため参加者席に一瞬のザワメキ。報道関係も多く大会が賑わった。

▼来日中のインド・カルカッタ市長も急に出席。開会式で紹介だけと思っていたところ挨拶。人手不足によるハプニングであった。

▼人手不足といえば、今大会は予算もギリギリ。そこで事務総局の部長、主事の奥様も応援にかけつけて案内やら接待やらと大変でした。

▼全仏主催ということで、組織部の柴主事が大奮闘。今年入ったばかりなので大会もはじめて。連日、先輩におこられながらも夜遅くまで準備し、大会当日には数キロやせたとのこと。苦勞さまでした。

# 第27回大会を終って

『八十年代の仏教開発』をテーマに、第二十七回全日本仏教徒会議が加盟団体代表者集会として、初めての形で開催された。全国より各宗派、県仏、諸団体の代表者にご参集いただき、シンポジウム形式の討議がなされ、無事に終了しましたことは、偏見に実行委員の方々、あるいは増上寺さんなど関係各位の御支援とまずもって感謝申し上げます。

今大会は、加盟団体代表者集会と謳っている如く、過去二十六回の大会とはその趣きを異にしたものであった。第一回より十回までは各大本山を会場に、またその後の大会は地域仏教会により地方色を出した盛大な大会が開催されてきた。しかるに今回全仏が単独で主催するに

## 仏英研が主催

仏教英語研究会（仏英研）では、左記要項にて、第二回英語による仏教研究発表会を開催する。この大会は、研究および紹介を目的としたもので、日本文化、特に仏教を英語を通して考えるよい機会です。大会の出場者を広く募っておりますので是非ご応募して下さい。

日時 昭和五十六年二月二十一日

至った背景は種々あるにせよ（開催する県仏がなかったことも事実として）、それと同時に、経費が多くなる大会を見直し、また内容ある討議を重ね、加盟諸団体に直接、あるいは間接的に反映させるべきであるとの声にこたえるべきことも、全仏が主催する理由であり、今後の大会の在り方をも示唆すべき大会でもあったわけでありませう。

それ故に、各加盟団体からはそれぞれ代表者をご推薦いただき、規模の大きさよりも内容の充実を、理想的な問題よりも具体的な問題を、との二面に重点が置かれて開催された。

大会を終えて、すぐ全体的な評価を下すことは困難であるが、「規模より内容

面」ということでは、まずまずではなかったかと考える。しかし、シンポジウム形式において「より具体策を提起し、もっと実践的な話し合いを」、「単なる話し合いだけでは意味がない」などの意見を生かし、全仏主催ということであればその立場をより鮮明にし、組織の強化・運営にとたずさわっていかねばならぬことも痛感しました。

明年の大会も、今回と同形式にて開催の方向であるが、これらの反省点とともに、生々しい諸問題にも当面せざるを得ないと思われませう。複雑化する社会にあつて、今大会のテーマである『八十年代の仏教開発』が生かされるよう真剣に取り組む必要があります。

大会を終え、感謝申し上げますとともにより一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

(組織部)

午後一時半より五時まで  
会場 六本木 国際文化会館  
テーマ 仏教、または日本文化と仏教

## 第2回 英語弁論大会 出場者を募集

資格 特に定めなし  
参加費 千円(当日会場にて)

発表 英語により七分以内  
申込み 一月末日までにレシメを添えて事務所へ郵送のこと。  
事務所 東京都新宿区新小川町3の17  
牛込グレースマンション501  
電話 〇三二二六七一九五六一  
※一般の方、あるいは外国人にも参加していただけるようご推薦下さい。  
賞品多数あり。審査員は同会理事、講師先生方。交通費自弁。  
参加資格は自由

## 寺院用具

浅草通り五鳳会加盟店

株式会社 決田商店

東京都台東区寿2-10-9 (地下鉄田原町駅前)

電話 代表 (841) 4965

8ミリカラー・スコープ120分 ¥110,000  
(昭和37年作)

本誌読者特別価格  
¥99,000



専用スコープ付高級8ミリ映写機発売中!!

TACNON 808-OM 標準価格 ¥125,000  
特別価格 ¥98,000

●お申込みは直接郵便又はお電話で下記へ。\*分割額布も致します。  
●お申込み次第発送致します。●代金は現品到着後お送り下さい。



大映映画株式会社映像事業部

東京都港区新橋3-10-9(第5兼ビル7F) 千105 ☎03(436)3760-3624

# 都道府県仏 代表者会議

## 組織、財政の悩み目立つ



増上寺で開かれた都道府県仏代表者会議

### 一、各県仏事業報告

第二十七回全日本仏教徒会議前日の十二月三十一日、午後四時より増上寺南側信徒控室に、十九都府県仏の代表が参集し都道府県仏教会代表者会議が開かれた。会議は小野島次長の三婦依文唱和のあと、勝部組織局長が挨拶、座長に神奈川県仏・貝山宣泰会長を選出して議事に入り、熱心な意見交換が行なわれた。

- 【青森】県内各市仏の活動が盛んで、花まつりなどが中心となっている。特に八戸・弘前市などは盛大に行なわれる。
- 【岡山】宗教学者の研修、花まつりの助成や、日中仏教文化交流の計画もある。
- 【岩手】広い県なので県仏としての活動はむずかしい。明年の東北ブロック会議は岩手で行うことになっている。
- 【栃木】仏教講演会を開催し好評であった。
- 【茨城】昨年の大会を契機として仏婦、仏青を組織して活動している。戦跡巡拝慰霊を行った。
- 【東京】五十余の仏教会があるので悩みはつきない。事務局は連絡所として多忙すぎる。成道会などが活動の中心。
- 【神奈川】大本山クラスがたくさんあるが県仏と融合してやっている。成道会などを盛大にやっている。
- 【埼玉】財団法人となっており、職員もやとなっている。県仏教徒大会を開催、機関紙年四回発行。今後の課題としては組織の和を広げること。
- 【山梨】細々とした活動をしている。今

後は組織の拡充に力をいれたい。現在名簿を作成中。

【山形】十周年大会を盛大に行なった。会費未納寺院は一カ寺もない。地元TV局と番組提供を計画中である。

【静岡】会報の発行、慰霊法要など。仏婦の活動に力をいれている。他は市仏・郡仏の活動が盛んである。

【京都】大変寺院数も多く活動がむずかしい。財政面で非常に苦労が多い。

【香川】花まつりを中心に活動。また同和問題、慰霊法要、ブロック会議、実務研修など行なった。

【滋賀】財政は困難。県仏としての活動も細々とやっている。

【岐阜】檀信徒会は十五万世帯で年々活発に活動している。

【和歌山】広いので充分連絡がいきとどかない。県仏ニュースを創刊。中国も訪問した。

【群馬】厚生保護会が大きな仕事となっている。機関紙年二回。

以上のような報告がなされたが、一部をのぞいて、組織上の問題点や、財政面の悩みをかかえているようである。

### 一、次期全仏大会について

次期大会も全仏主催で開催する方向が了承された。

### 一、その他

全仏の各部長より、機構改革委員会、靖国問題、全仏誌、WFB大会、同和問題委員会、税対策などについて報告がなされた。

### 全仏輪袈裟

こげ茶、法輪マーク付き  
¥一、五〇〇円

### 法輪バツチ

径1cm、ネジ式  
¥一、〇〇〇円

### 日の丸・仏旗バツチ

¥五〇〇円

全日本仏教会総務局

### 難民救援寄金

静岡県仏教会	五六、六四〇円
浄土宗仏青	二六四、三一円
高野山真言宗	一、〇〇〇、〇〇〇円
埼玉県仏教会	二、一八七、七四五円
香川県仏教会	五二四、三三八円
千葉県仏教会	三一八、〇〇〇円
岐阜県仏教会	一、二九六、五〇〇円
日蓮宗	三、〇〇〇、〇〇〇円
小樽市仏教会	二七八、五七二円
本島市同朋会	一三、五〇〇円
浄土宗栃木教区寺庭婦人会	三〇〇円
金蔵院	二一六、五〇〇円
中村宗四郎	一〇、〇〇〇円
総計	九、〇七五、四〇六円

全 仏

理事会、評議員会ひらく

負担会算定方式変更など審議

全日本仏教会の理事会、評議員会は、十一月十一日午後一時より、東京グラン・ドホテルにおいて開催され、辨淵理事長と加藤総務局長挨拶のあと、評議員会の議長に別所弘因師、理事会の議長に辨淵正浩師を選出し両議長挨拶。次いで議事録署名委員に、評議員会は来山泰龍師、畑直孝師。理事会は土持良栄師、阿部博邦師を指名し、両会共通議案のため台同で議事に入った。

議案第一号「昭和五十六年度加盟宗派負担会算定方式変更」にともなう昭和五十



開かれた全仏の理事会、評議員会

六年度全仏予算の編成方針について

担当局長、部長より事務局案の説明をうけ質疑応答のうえ、算定方式は了承。都道府県仏の負担金は今後研究する。予算は次回理事会、評議員会に提出する。

議案第二号「山形県仏教会理事資格について」

担当局長、部長より説明し承認。報告事項①「全仏センター建設現況報告」

機構改革委員会開く

京都・智積院で

第七回機構改革特別委員会は、十月二十三日午後一時より、京都・智積院にて開催され、日野事務総長挨拶のあと、議長に伊東委員を選出して議事に入った。

一、前回委員会の経過報告

一、寄付行為の第二十五条、二十六条の検討について

二条についてはこのままにしておくが委任、委任状の解釈などについて、付則として左記の通り明確にする。

イ、委任状の範囲は、事前に通知してある議題に関する議決のみ委任。

ロ、委任者の範囲は、出席の理事、理事長（常務理事会においては常務理事、または理事長）

告について

報告事項②「機構改革特別委員会報告について」

報告事項③「同和問題その後の報告について」

報告事項④「第二十七回全日本仏教徒会議報告について」

報告事項⑤「スリランカ首相一行歓迎会について」

報告事項⑥「靖国神社法案について」

報告事項⑦「WFB大会について」

報告事項⑧「ルンビニ開発推進について」

八、決議権の問題は、理事、常務理事以外にはない。

二、発言の問題については、代理者の発言は原則的に認めない。理事長が発言を求める場合もある。

一、その他

中間答申以後に審議してきた結論を次の理事、評議員会へ答申する。答申書は弁護士、文化庁とも相談し作製する。

【出席者】堀井隆俊、可見光永、岩脇宏信、伊東康雄、北村章道

同和特別委員会

二 議題につき審議

第六回同和特別委員会は、十一月六日浄土真宗本願寺派門徒会館において開かれた。

一、国際人権シンポジウムについて

同シンポジウムが、十二月四日〜十二日まで国際人権規約大阪府民会議の主催で、大阪・東京で開催される。全仏もその実行委員として、期間中の六日、八日十日の大阪と、十二日の東京に動員依頼があり協議された。これについては、大阪集会は、京都、大阪近郊の宗派、東京集会は東京近郊の宗派に協力依頼をすることとなった。

一、ガールド氏の特別講演について  
同シンポジウムの講師として来日するインドのガールド氏（ジャワハラル・ネール法科大学長）の特別講演会について協議し、同氏が十二月二日来日が決定的なため翌三日の午後一時より、京都「平安会館」にて開催することとなり、自由参加の型で、全仏、各宗門より呼びかけることとなった。また、講演後のデイスカッション、懇親会などについても協議された。

【出席者】小泉宗和、可見光永、久保井恭彦、松本健雄、近藤玄鶴、小川又信、岸融証、清胤徹昭、堀井隆俊、竹田英宣、蓮池瑞旭、三神栄隆

国際人権シンポジウム案内

「戦争と差別」に反対し、部落差別をはじめとする一切の差別の撤廃を求めるあらゆる人々が結集し、世界で初めての「国際人権シンポジウム」が開催されます。シンポジウムは外国からの招待講師等とともに、十二月六日、八日、十日は大阪において開催され、十二日には東京で東京集会が開かれます。

# 第27回 全日本仏教婦人大会

## 心の里親運動を目標に――

全日本仏教婦人連盟（全日仏婦）では全仏大会の一翼をになうべく、大会前日の十月三十一日午後一時より大本山増上寺において「第二十七回全日本仏教婦人大会」を盛大に開催した。

今年度は、全仏教婦人の総力を結集し共に生き生きかされる命の尊さを全世界の幼い生命によびかける「心の里親運動」の展開に目標をおいて開かれた。

第一部の法要・法話は、増上寺・藤井実応台下の導師、尼僧法団の式衆によって厳修され、このあと藤井台下より「ともに生きる喜び」の法話があった。

第二部は、山本スギ理事長の挨拶につづいて基調講演が行なわれ、戦火のカンボジアより奇跡の帰国をされた内藤泰子さんが「共に生きる」との題で、カンボジアの悲惨な現状や共に生きる喜びなどを語り、参加者は胸うたれるものがあった。このあと討議に入り、「心の里親」運

動について意見がだされ「アジア諸地域における多くの母親たちは、幼い生命を充分はぐくみ育てることができない。この母親を通して、子供一人ひとりの心の里親となり、援助の手をさしのべなくてはいけない」などの話し合いがなされた。最後に、インド舞踊、祝電披露、仏婦の歌合唱などがあり終了。地方からの参加も多く盛会であった。

### 長野県仏教徒会議

#### 家庭教化運動を推進

長野県仏教会（三浦義章会長）では、第二十六回長野県仏教徒大会を、上伊那仏教会（内藤真澄会長）の協力により、十月二十日午前九時より、駒ヶ根市赤穂の光前寺を会場に開催した。古い歴史と組織力をもつ県仏だけに、

その時代を背景に、新しい運動をつねに展開し、また家庭教化への歩みも重ねていく。

今回は「仏教徒の使命を自覚し、永遠の和平を祈って」のテーマのもとに盛大に開催され、第一部の法要は三浦会長の導師のもと厳修され、第二部の総会では三浦県仏会長、地元の内藤会長挨拶のあと全仏の勝部組織局長等が祝辞を述べ、議長団の選出が行なわれた。

議事として、①家庭教育「家中でそろって合掌 いただきます」「②「環境美化運動」よこすまい、先祖の残した「この郷土」、③仏教精神における家庭教育、④世界平和、祈りと実践などが提案された。このあと清興として駒ヶ根大鼓が披露され、つづいて松原泰道師の「人間であること」と題する記念講演があり大会宣言文の発表などがあり、有意義に終了した。

### ◆掲◆示◆板◆

#### 高野山真言宗

▼高峰秀海管長の任期満了に伴い、森寛紹師が新しく同宗管長、金剛峯寺座主に推戴された。

#### 真言宗豊山派

▼川田聖見管長の任期満了につき、築山定普師が新しい管長に推戴され、また総本山長谷寺の法灯を継承した。

#### 日蓮宗

▼松村寿願宗務総長の退任に伴い、新しく塩田義朗師を選出した。なお全仏の加藤総務局長は、同宗総合企画部長とし

て内局入りした。

#### 京都府仏教会

▼京都府仏の事務所が左記に移転しました。（京都市仏も同じ）

【新事務所】京都市左京区聖護院中町十五聖護院内、電京都七五一―六九八八  
東京都仏教連合会

▼東仏では、十二月八日午後一時より新宿・紀ノ国屋ホールにて、成道会の集い、を開催する。式典、清話、映画（ゴータマという男―仏陀の生涯）など。

#### 事務局録事（十一月）

- 一日 第二十七回全日本仏教徒会議
- 六日 同和特別委員会
- 十日 局内会議
- 十一日 理事会・評議員会
- 十二日 長谷寺普山式出席
- 二十一日 WFB日本代表団出発
- 二十二日 第十三回WFBタイ大会（バンコク他、二十九日まで）
- 三十日 WFB日本代表帰国

#### おことわり

昭和五十六年版の「全仏手帳」の発行に際しましては、ご協力いただきました。誠にありがとうございます。おかげさまで、すべて売りつくしましたので申し込みは締切らせていただきますので、許容下さい。

### 表紙の写真

#### 「滝行」

高野山の冬は早く、水量は少ないが肌をさす風は寒気をもよおす。そうした中で行なわれる滝行は、高野山内の

通律寺（真別処）における真言宗の修行、ならびに三事修行の前に、身を清め、精神統一するための行法の一つとして、古くから伝わる厳しい修行である。また真別処では護摩修行なども行なわれる。

昭和五十五年 十二月一日発行

十二月号 第二六四号

発行人 日野照正  
編集人 安本利正

発行所

財団法人 全日本仏教会

東京都港区芝公園四―七―十三  
電話〇三（四三七）九二七五